記者発表資料

令和元年８月２３日
岩木川ダム統合管理事務所

津軽ダム　かんがい期間の用水補給　達成の見込み

～「平成」以降　最小規模相当の少雨の中で～

津軽ダムでは５月以降、かんがい用水等の補給をしていますが、このところの降水に伴う貯水率の回復並びに今後の利水動向等から判断して、かんがい期間の用水補給を達成できる見込みとなりましたのでお知らせします。

岩木川水系は今年５月以降少雨傾向で、その影響により河川流量が低下し、かんがい用水等の水利用や河川環境への影響が懸念されたため、青森河川国道事務所及び岩木川ダム統合管理事務所では岩木川水系渇水対策支部（警戒体制）を設置し、河川状況の監視強化、関係機関との連携強化を図ってきました。

また、津軽ダムの貴重な水を有効に活用するため、渇水情報連絡会を通じ利水者間で調整を進め、利水者間の自主的な節水状況を踏まえながらダムからのかんがい用水等の補給を続けてきたところです。

一方、昨夜からの降水により津軽ダムの貯水率は８月２３日１１時時点で約２１%に回復しています。この結果、津軽地方における９月５日までのかんがい期間中において、今後、降水が見込めない場合においてもかんがい用水等の補給を達成できる見込みとなりました。

仮に津軽ダム建設前の目屋ダムにおいて、今回のかんがい用水等を補給し続けた場合には６月中旬頃にダムの利水容量は使い果たしていたものと推察されます。これに関連して農業関係者を始めとする利水、内水面漁業関係者を対象とした津軽ダム利水効果に対する地元の声を別紙に掲載しています。

なお、岩木川ダム統合管理事務所が管理する津軽ダム地点（平成２７年以前は目屋ダム地点）の降水量データを集計したところ、速報値ではありますが、平成元年以降最小規模相当の少雨の年であることがわかりました。

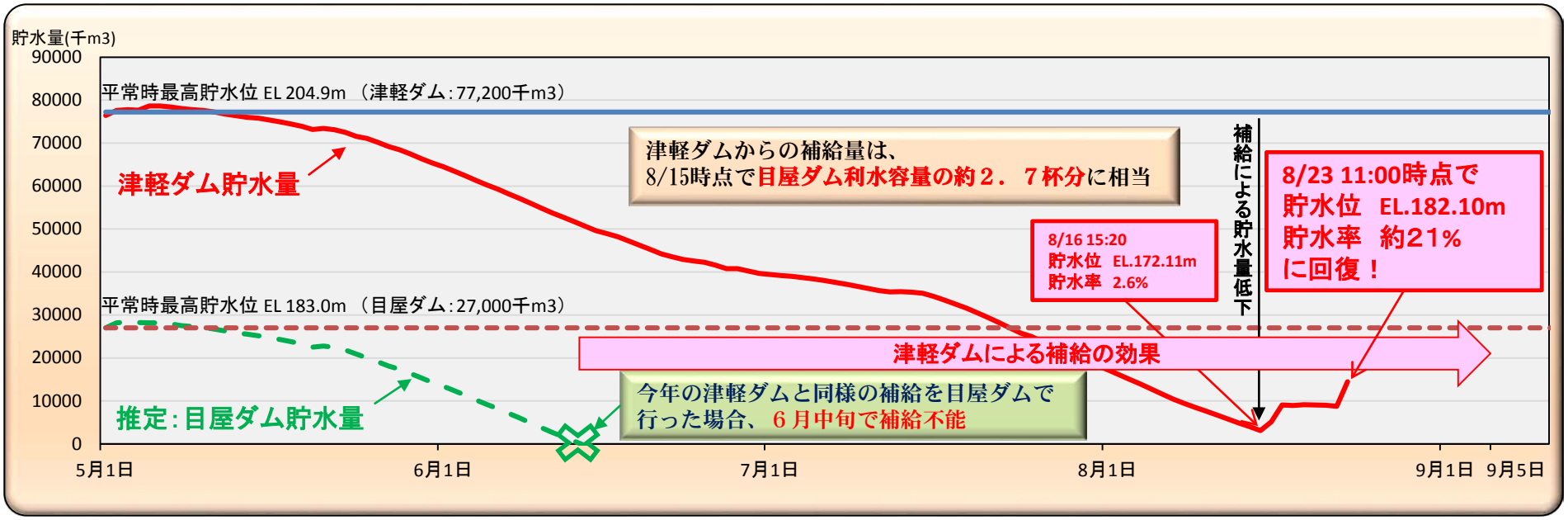
〈発表記者会：弘前記者会、黒石記者クラブ、専門紙各社〉

お　問　い　合　わ　せ　先

国土交通省　東北地方整備局　岩木川ダム統合管理事務所
（浅瀬石川ダム・津軽ダム）
中津軽郡西目屋村大字居森平字寒沢１３８－２
電話　０１７２－８５－３０３５
副所長（技術担当）　三浦（みうら）　義昭（よしあき）　（内線２０４）
管理課長　五十嵐（いがらし）　悟（さとる）　（内線３３１）

津軽ダムからの補給と関係する利水者との緊密な連携強化で かんがい期間の用水補給達成の見込み

岩木川ダム統合管理事務所





■津軽ダム貯水池の状況写真
（R元．８．13ドローンにて撮影）



■管理移行後、一番低い貯水位となった津軽ダム
（R元．８．16　8時30分撮影）

平成元年以降最小規模相当の少雨における津軽ダム利水効果に関する地元からの声

岩木川ダム統合管理事務所

農業関係者の声（青女子堰土地改良区　鳴海事務長）

・津軽ダムができる前は､岩木川から直接取水していたが、岩木川本川で必要な水量を取水できないことがたびたびあった。
・今年、雨が降らなくても水が切れないのは津軽ダムのおかげ。

農業関係者の声（西津軽土地改良区　事業課　淺利課長）

・津軽ダムができる前は、６月に入ってから岩木川の水量が極端に減り、毎年のように番水があった。
・津軽ダムができたことにより安定した水量となり、配水計画を作成できるようになった。
・番水というストレスから解放された。
・用水路に常に水が流れているという安心感がある。

上水道関係者の声（弘前市　上下水道部　上水道施設課　石川課長）

・津軽ダムができて、安定的に取水できるようになり、水質もよくなった。
・水温は低い方がおいしい水になる。

漁協関係者の声（岩木川漁業協同組合　村上組合長）

・岩木川の水量が一定に確保され、安定した水量となった。
・水量が増えたことも関係するのか、水質もきれいになっているように見える
・特に令和元年はアユの遡上が多いこともあるが、アユ釣りが平成３０年に比べて多い。
・渓流釣りも平成３０年よりも多い。

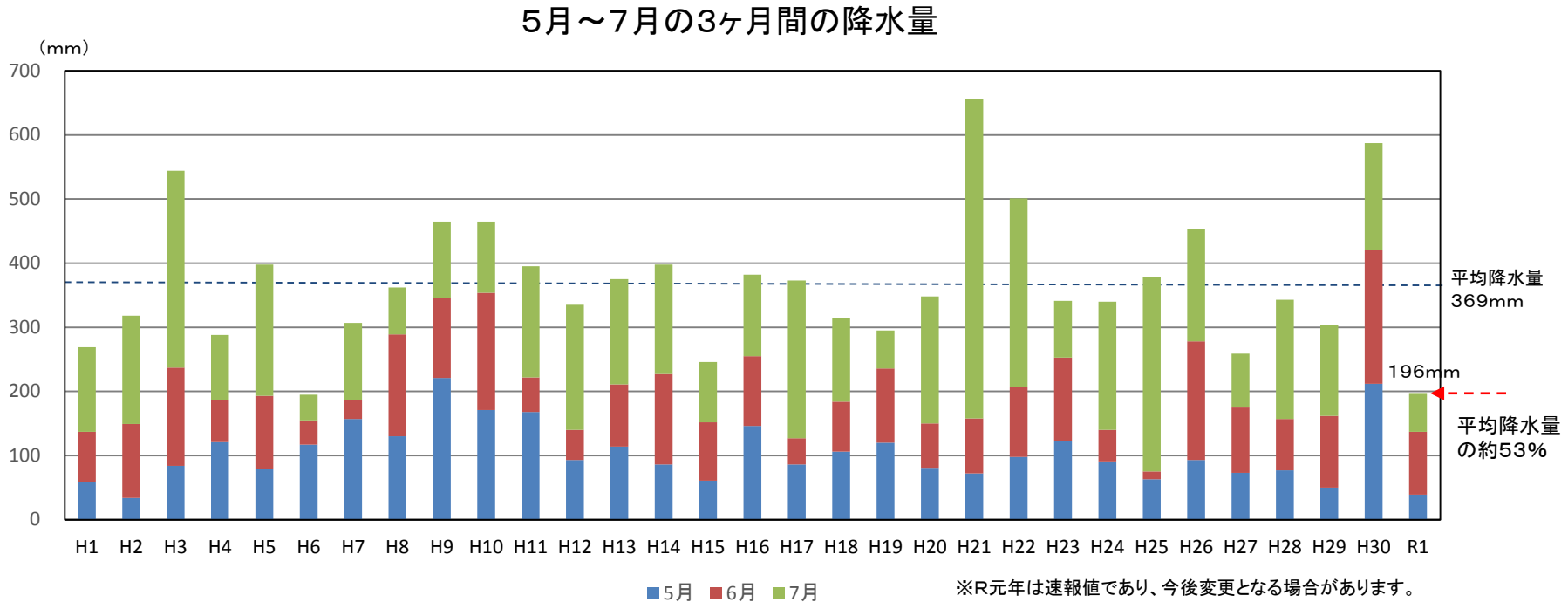
平成元年以降最小規模相当の少雨　～津軽ダム地点　降水量データ集計～

岩木川ダム統合管理事務所

・津軽ダム地点（平成27年以前は目屋ダム地点）の降水量データを集計したところ、平成元年以降、最小規模相当の少雨の年であることわかりました。

・令和元年5月～7月の3ヶ月間の降水量は196mmで、平成6年（195mm）とほぼ同じ降水量となっています。

・平成元年以降31年間で最小規模相当の少雨となっており、平均降水量と比べて約53%にとどまっています。



※R元年は速報値であり、今後変更となる場合があります。